

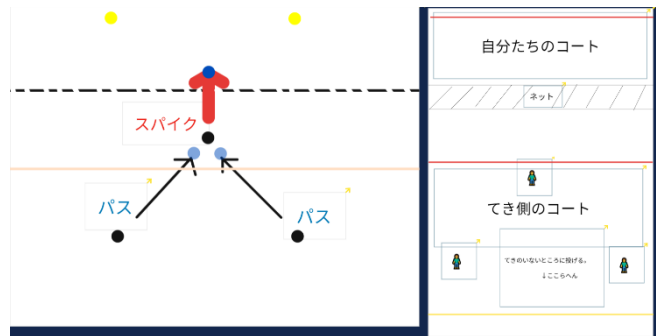
## ボールゲームにおけるICTの活用

【内容】メディアポートフォリオとしてのロイロノートの活用。

【使用アプリ】ロイロノート

【事例紹介】

体育科「キャッチバレーボール」の单元において、試合の様子を動画で撮影し、チームごとにロイロノートの共有ノートで動画を見せて、次の時間の作戦を考えさせた。作戦を考えさせる際には、考えさせたい場面の動画を切り取って提示し、自分たちのグループのどんな動きが良かったのかを考えさせた。そうすることで、フェイントをして投げたり、空いている場所に投げ込んだりしているという意見が児童から出てきた。また、毎試合の動画をチェックし、パスのミスをするすることで失点をしたり、相手がいる場所にボールを投げ込んだりしていることで、得点につながらないことに気付いていた。そして、チームの決めごととして、「パスミスは減らそう」「励まし合おう」「アウトカインの声を掛けよう」などの確認を行っていた。



【終わりに】

今回の「キャッチバレーボール」の单元では、チーム内で攻撃する児童が偏らないように、得点率を紙媒体で児童に記録させた。その部分をGoogleスプレッドシートを活用し、グラフ化できるようにしておくことで、児童の記録を簡単に行うことができ、意欲につながる働き掛けもできたと感じた。

☆教育委員会主幹講評☆ 子ども達の学習の足跡をファイリングし、評価として生かすポートフォリオ評価は、体育の授業においても有効な評価として実践されています。人がアルバムに収められた写真を見てその時の様子を思い起こすことができるように、身体活動をビデオ等で記録し、その情報を認知することは単に動きを修正したり、「できる・できない」を自覚したりすることを超えて、運動の意味生成に活用することができます。そのなかで、映像と文脈の中に置かれている自分の動きに意味を見付け、「学びがい」のある自分を見出すことにつながると言われています。しかし、数年前までは、体育の授業におけるメディアポートフォリオの活用には、何点か課題がありました。体育館、グラウンドにおいてコンピュータが利用できるインフラの整備がなかったこと、そして、どの教師でも活用できるような教師に負担がかからない、より簡便なシステムの構築等々がありました。GIGAスクール構想により、そういった課題が改善され、今回のようにChromebook、ロイロノートを有効に活用した、メディアポートフォリオが実現可能となりました。今後も実践での利用、活用を進め、より良い体育授業を目指して研究を進めてください。